



第3回 **絵双六に魅せられて**

大東京 名所めぐり

だいとうきやう
めいしよ
1932 (昭和7)年



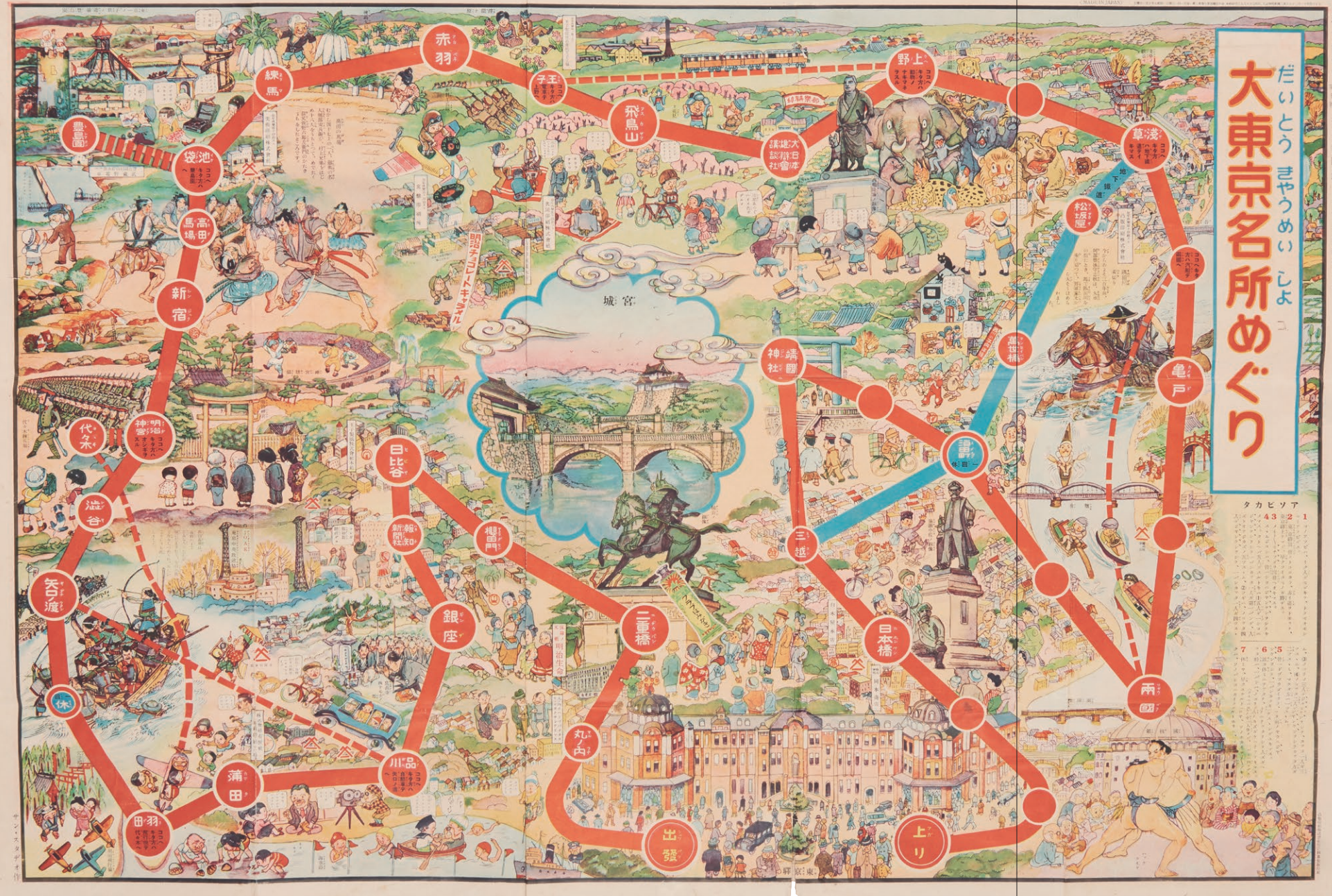
振り出し・上り 振り出しも上りも東京駅です。昭和20年の東京大空襲で被災した駅舎は、平成24年にこのコマの通りに復元されました。



高田の馬場 堀部安兵衛の18人切りの大迫力のシーン。昭和の初めにおいては、江戸時代はそんな昔のことではなかったでしょう。

大東京名所めぐり

だいとうきやうめいしよ



昭和7年制作。
幼年倶楽部10月号付録。
サイズはタテ62cm×ヨコ91cm
のビッグサイズ。裏面はヤマハ、
西川、コロビアレコード等の
広告で埋められています。

所蔵=吉田修 写真=鶴崎燃

文・監修 吉田修

よしだ・おさむ ●1954年生まれ、島根県松江市出身。全国求人情報協会常務理事、NPOキャリア推進ネットワーク広報部長、和文化教育学会会員を務める傍ら、築地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取り組む。

吉田修公式HP「築地双六館」=
<http://www.sugoroku.net/index.html>

「昭和七年という時代をわかりやく表現するものは？」という質問があれば、私はこの双六を挙げます。大東京名所めぐりは、大正一二年の関東大震災から帝都が復興したことを印象づけるために作られています。

日本橋の白木屋百貨店や愛宕山のNHKラジオの電波塔があり、代々木の練兵場では軍人が行進しています。明治神宮には三代揃った家族が恭しく鳥居に頭を垂れています。その向こうには、神宮球場があり、ピッチャーが振りかぶっています。新宿の西には田園風景が広がっています。洋風の二階建ての家もあれば、茅葺屋根の家もあり、火の見櫓の向こうには紅葉した山々が見えています。

四季折々六〇のシーンに四〇〇名の人が登場して時代を彩っています。社会経済、教育思想、軍国主義、家族風景、庶民の暮らしと娯楽、里山風景と江戸の名残りなどすべてが描かれています。

ちなみにこの年は、リットン調査団の報告書が発表され、チャップリンが来日して五・一五事件に遭遇しました。軍靴の響く時代だった。

たの
のです。
本文 7W
溢れます